

「十三」

生徒の成長を願う

校長 瀬戸 一太

年の瀬が近づき、冬の冷たい空気が日ごとに強さを増してまいりました。校舎周辺の木々もすっかり葉を落とし、冬の静けさの中で、生徒の明るい声がひとときわ響く季節となりました。2学期も終わりが近づき、授業や部活動、行事への取組もまとめの段階を迎えています。今年1年を振り返ると、生徒一人一人がそれぞれの場面で力を尽くし、着実に成長してきた姿が思い浮かびます。特にこの2学期は、多くの行事や学習の深まりとともに、仲間と支え合いながら課題を乗り越える経験が積み重なり、子どもたちの表情にも自信が増してきたように感じています。

一方で、地域の正保さんとともに11月末に実施を予定していた「きずなの森」の整備活動は、今回は見合わせる事となりました。活動を楽しみにしていた生徒も多く、残念な思いもあったことと思いますが、その分、来年3月の実施に向けて期待や意欲が高まっている様子が見られます。日頃から、生徒は森が地域にとって果たす役割や自然を守る大切さについて考え、地域に目を向ける姿勢が育ってきています。3月には、実際の活動を通して地域に学ぶ貴重な体験ができることを願っています。

さて、12月下旬は1年間を静かに振り返り、新しい年への準備を進める時期です。冬休みには、心と体をしっかりと休め、家族や地域の方々との温かな時間を大切にしながら、新しい年を迎える気持ちを整えてほしいと思います。来年も、生徒一人一人が主体的に学び、地域とともに心豊かであくましく成長してくれることを願っています。これからも、その姿を見守り、支えてまいります。保護者の皆様、地域の皆様には、4月以来、本校教育への深いご理解と温かいご協力を賜り、心より感謝申し上げます。どうぞ穏やかで、すばらしい新年をお迎えください。新年もどうぞよろしくお願いいたします。

◆◆◆ 2学期のアクションプランの取組について ◆◆◆

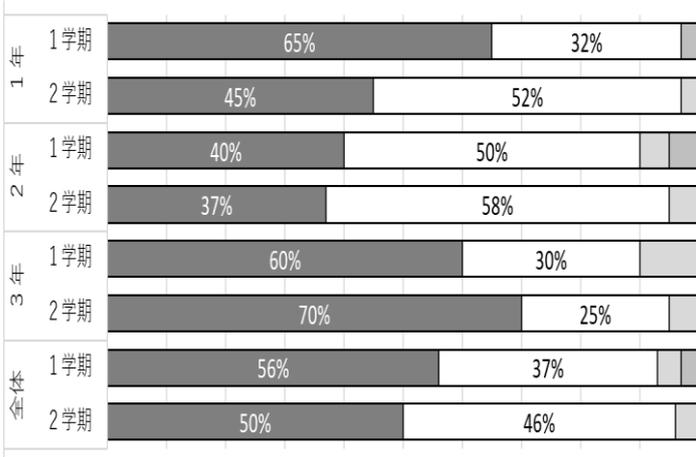
アクションプラン1 主体的に学習に取り組む生徒の育成

授業では、各教科で基礎・基本の確実な定着を図るとともに、活用を図る指導を工夫しながら授業づくりを行ってきました。また、意見を交流したり、学び合いを促す手立てを工夫したりして、生徒が自己調整しながら学習を進められるよう努めてきました。

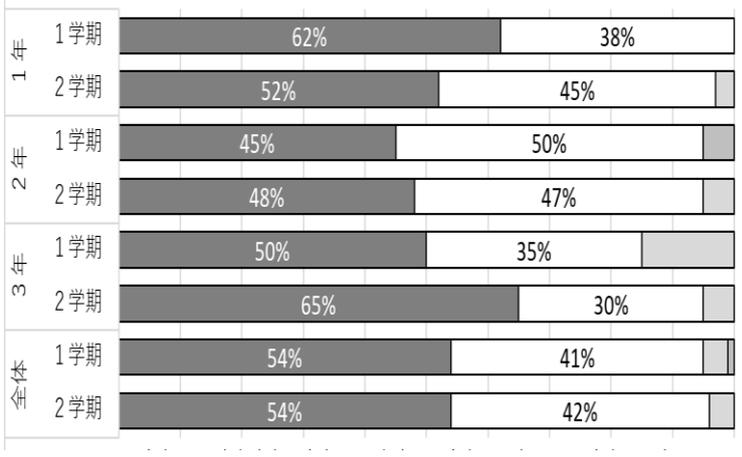
生徒のアンケート（12月上旬実施）を1学期と比較すると、全体として「よくできた」「だいたいできた」と答えた生徒の割合はわずかに増加しています。その一方、1年生では学習内容を難しく感じている生徒が増えています。今後は、授業と家庭学習をつなぐ課題を工夫したり、生徒が自立して学習を進められるような支援を行ったりしながら、生徒の家庭学習の習慣化を図るとともに、生徒一人一人に寄り添いながら授業改善に努め、確かな学力の育成を進めていきます。

【学校評価アンケート(生徒)の結果】

1 他の意見や考えを聞いて、自分の考えを深めることができた。



2 授業で「分かる」「できる」と実感できた。



■ 4: よくできた □ 3: だいたいできた 2 ■: あまりできなかった □ 1: 全くできなかった



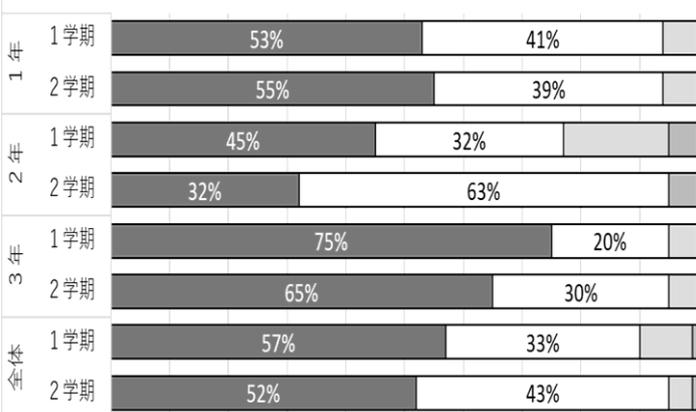
アクションプラン2 自ら考え行動し、高め合う生徒の育成

2学期は運動会や文化活動発表会等の大きな学校行事があり、生徒は自分の個性を生かしたり、集団で協力することの大切さを学んだりできる機会が多くありました。また、生徒会の中心が3年生から2年生へと引き継がれたこともあり、アンケート結果では、1学期に比べ、肯定的な回答をした生徒の割合が2年生で大きく増加しました。今後は、生徒自身が自分たちで課題を見付け、主体的に活動を進められるよう支援していきたいと考えています。

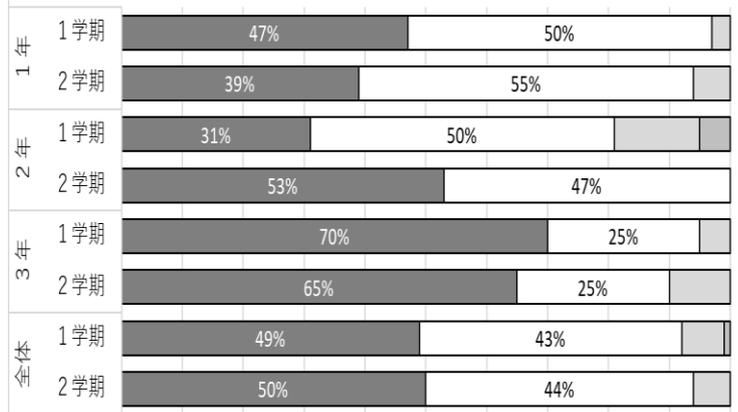


【学校評価アンケート(生徒)の結果】

3 自分が友だちや集団のためにできることを考え、進んで実践することができた。



4 集団の向上のために役に立つことができた。



■ 4: よくできた □ 3: だいたいできた 2 ■: あまりできなかった □ 1: 全くできなかった